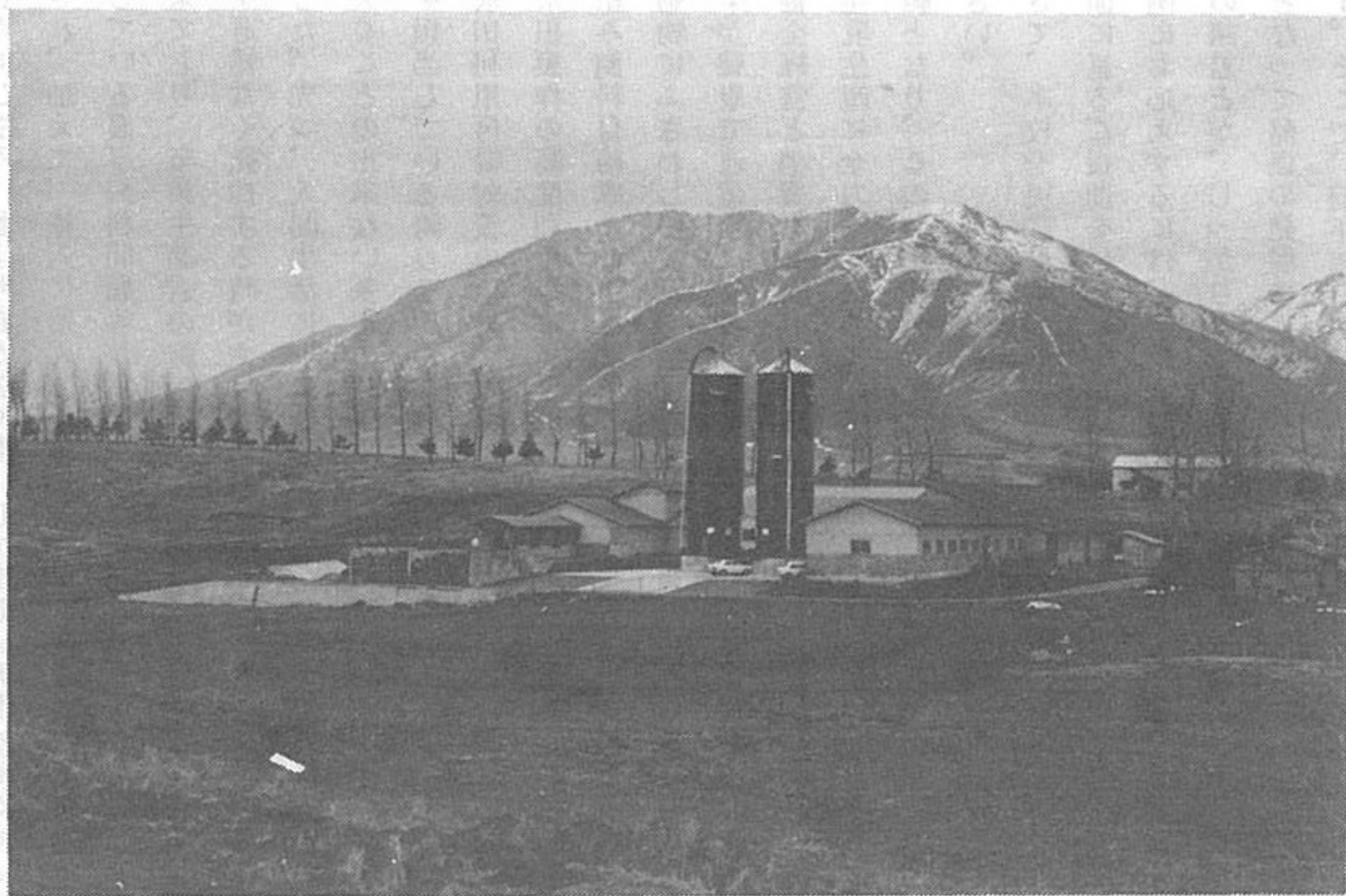


学園だより

地方競馬益金事業
No. 11
1979年3月31日発行
財団法人
中国四国酪農大校
電話 086766-3651



第 2 牧 場

地域のリーダー となつて頑張ろう

副校長 竹内 秀 雄

昭和五三年度も残すところ僅か一か月少々となりました。この頃は平常の年であれば、蒜山三座はもとより牧野一面が根雪に被われ、土の見える処が少ない時節ですが、今冬はどうしたことが、昨年の一二月、二月の暖冬に続いて暖かく、三〇センチ程度の積雪が三回降ったに過ぎず、老人が珍らしいことを「六〇年振り」と言うように大変珍らしい冬です。

学校では、ポプラ並木に囲まれた教室で、第一三期生が家畜人工授精師の免許試験を終え、今、卒業論文の総仕上げに一生懸命頑張っており、畜舎では、ホルスタインとジャージーが暖かい冬とあって元気にサイレージを喰み、思わぬ生乳の増産をしています。

卒業生の諸君は、益々元気で、若さと根性を発揮し、日夜を問わずそれぞれの仕事に精励されていることとお喜び申し上げます。

前回までの「学園だより」でお知

らせた如く、学校は施設整備に全力を挙げており、本年度で計画を一旦完了いたしました。その内容は飼料基盤整備事業による糞尿の土地還元施設から、鉄筋コンクリート二階建ての研修センター、モダンで落ち着いた女子寮、体力増進と親睦の場として体育館の建設、近代的で衛生的な搾乳施設ロータリーパーラー、省力化を目的とした合理的作業機械等、総事業費三億三、六〇〇万円に及ぶ整備を行いました。本年度は引き続き緊急粗飼料増産総合対策事業で、サイロ体型の確立、即ち、気密サイロ三基（貯蔵能力四〇〇トン）、トラクター、ワゴン等一連の機械と、格納庫を事業費約七、〇〇〇万円をかけて整備し、学生の教育上、又牧場経営の面からも待望していた施設を完了しました。これは、卒業生諸君が築いてくれた尊い伝統と、各地で立派な酪農自営者として実績を挙げていることに対し、農林水産省、岡山県、地方競馬全国協会を始め、

目次

地域のリーダーとなつて頑張ろう	1
学校の近況	2
牧場の現況	3
第一牧場	3
第二牧場	5
卒業生からの便り	7
大学校あれこれ	10
お知らせ	11
人の動き	11
編集後記	11
十四期生名簿	12
十三期卒業生名簿	12

構成県及び関係機関の深いご理解と力強いご指導、及び物心両面に亘る強力なバックアップの賜と厚く御礼を申し上げます。

このようにして本校は、益々発展を続け、明年度の入学希望者も四八名に達しております。卒業生諸君、伸び行く本校の姿を友達と又ご家族同伴で見に来て下さいお待ちしております。

最近の酪農はご承知の如く、貿易問題、殊に農産物の輸入拡大の外圧や、関税引下げ要求、内にあるのは、経済の低成長の継続により牛乳等の

消費が伸び悩み、量より質が強く要求され、加えて、輸入に殆んどを依存している濃厚飼料問題等が重なって来ており、卒業生諸君の腕の見せ所を遺憾なく発揮する時がやって来ました。先づ、人間生活に一日として欠ぐことの出来ない基本の食糧生産を担当している誇りを持ち、続いて水田利用再編対策の活用、牧草地や水田裏作の高度利用等に積極的に取組み飼料自給率の向上を図り、草食動物にふさわしい飼育を行ない、乳牛が健康で連産性に富み、安定した健全経営と消費者に喜ばれる良質の生乳生産に全力を傾注して地域の模範となり、この時代を乗り越えて下さい。

さて、本校を更に発展させ、物心両面に亘るご援助をいただいた関係機関にお応えするには、学校と卒業生の諸君とが、しっかり手を繋ぎ一体となって酪農の発展に邁進する事です。そこで、前年に引続き卒業生の組織作りを強く希望いたします。このことについては諸君等が自らの盛り上りと積極的な行動により、既に結成されている島根県の卒業生会のように、県毎の組織作りから進めたらと考えています。先般、六期生会が津山市で開催され、私も参加

して楽しい時間を過ごすとともに、組織化の芽えを感じました。卒業生の諸君よろしく願います。

学校の近況

教育部長 植木 富士男

現在本校には二二五頭の乳用牛と草地七三・九ha飼料畑五・五ha自然草地二六・九ha計一〇六・三二haを職員学生が一体となって飼育管理と草づくりに汗を流しております。

最後に卒業生諸君のご健康とご活躍を祈っております。

只今学生は第十三期生二七名が後期在学中、第十四期生三四名が校内外研修を行っており将来有望な酪農経営者となるべく希望と自信に充ちて一生懸命頑張っています。その状態をつぶさにみて、これでこそ酪農の将来は明るく希望が持てる生業であると自信の程を強くしています。

牧場別乳用牛頭数

牧場別	品 種	成 牛				育 成 牛			合 計
		搾乳牛	乾乳牛	未経産牛	小計	12~18カ月	12カ月未満	小計	
第1牧場	ホルスタイン	28	5	4	37	4	22	26	63
第2牧場	ジャージー	90	15	20	125	12	25	37	162
合 計		118	20	24	162	16	47	63	225

(第1牧場 肥育牛6頭, 第2牧場 同5頭を含む) (54.2.1現在)

第十五期生の入学の時期も近づいておりますが、卒業生の皆さん達が優秀な酪農経営者として又優秀な指導者として地域のリーダーシップをとっておられるので、その影響が大きいく酪農を経営するには先づ「酪農大」学校で勉強し、知識や経験を身につけてから」と構成県を始め広汎な地域から多数の入学希望者が殺到し、誠に嬉しく思っています。

去年の夏は雨量が少なく、牧草や飼料作物に大きな被害が発生した地方もありましたが、幸い蒜山地方は比較的夕立も多く、それに加えて本

緊急粗飼料増産総合対策事業 で導入した機械及び施設

区 分	構造又は規格	数 量
トラクター MF 194-4	76P ^S 4輪駆動	1台
トラクター MF 185	76P ^S 2輪駆動	1 "
ロータリーモア MF 70	170cm刈巾	2 "
ジュミニテッター (リリー)	300cm作業巾	1 "
サイドレーキ MSR 220A	チリール	1 "
フォーレージハーベスター NHS 717	ピックアップユニット (コーンユニット付)	1 "
ピックアップワゴン TPW 30A	14 m ³	1 "
カッタープロワー SCB 40	40t用	1 "
ワゴン (デリカ)	DW 20002 t	1 "
シンプレックス シールドスター	300 m ³ VFB 16-51	2 基
ポリエストアー	200 m ³ MT-150	1 "
格 納 庫	鉄骨トタン 200 cm ²	1 棟

校の草地や飼料畑は牧場の職員や学生達の努力によって管理が十分行き届いていたので、収穫もよく、冬期の粗飼料も十分に確保されました。とは牧場にとって有難いことでした。例年なら積雪の多い蒜山地方も、今冬は降雪量が少ない暖冬で飼料効率がよく乳量も多いので、早朝作業も苦にならず笑顔をほころばせ乍ら、「オース」の声もお互いに意気が通う牧場の搾乳作業です。

畜産特に酪農を振興するためには、自給飼料の増産を図ることは重要なことであり、しかも良質の粗飼料を生産し経営の安定に努めることはいに役立てなければなりません。

これらの施設や機械を、学生教育と経営の合理化のため効率よく利用して、より良い粗飼料を生産貯蔵し、冬期間は勿論のこと通年給与により、乳量の増加と学生の実践教育に役立てなければなりません。

牧場の現況

第一牧場だより

雄大でドラマチックな高原に聳える気密サイロの雄姿は、ポプラ並木と共に草原にマッチして、蒜山名物の一つとなり訪れる観光客の目を楽しませており、牧場が一段とコントラストを浮き出させており、気密サイロの普及啓蒙にも役立つことと確信しています。

先輩たちが築き、そして卒業生の皆さんが学んだ教育施設や機械も、国、県及び地方競馬全国協会の絶大

な御協力の賜であり、深く感謝すると同時に今後とも大切に維持管理をし、酪農実践教育の場としての本校の目的を達成するために、その効果を発揮させねばならないと思っております。

卒業生の皆さんも、進展しつつある酪農大学校には是非御来遊され、体験話や近況をお聴かせくださればと念願する次第です。

◎生乳の生産状況

自給飼料の確保、搾乳牛の個体的管理の徹底、乳牛改良等に場員一同努力した結果、生乳の生産はほぼ順調な伸びを示しています。特に、本年度前半には、分娩頭数の少なかつた割に初産牛の分娩が多かつたので、生産乳量の伸び悩みがりましたが、後半になって、分娩頭数も多くなり、更に好天にめぐまれ非常に暖い秋であったので、青刈飼料（秋作イタリアンライグラス）を十分刈取給与することができ、乳量の大巾な伸びがみられ、現在でも順調な生乳生産を

に注意して万全をはかりました。圃場における主要な作業は雨天の日の少なかつたため殆んど計画どおり実施することができ、自給飼料の生産も一部を除いては良好であったと思われまます。

本年度は、緊急粗飼料増産総合対策事業により、気密サイロ（トップアンローダー付、ポリエストアー二〇〇㎡）一基を第一牧場バンカーサイロの南側に設置し、更にこれに關連した大型機械（MF一八五トラクター、フォーレージハーベスター、ロータリーモア）も新しく導入し、粗飼料生産における機械化体系を確立しました。それでは自給飼料の生産状況について、利用区分別に概況をお知らせします。

青刈給与することができ、学校創立以来はじめてのことといわれています。

埋草利用は例年のように飼料畑を二毛作利用し、イタリアンライグラス二・一ha、トウモロコシ五・〇ha作付し、イタリアンライグラスはタワーサイロ二五t、気密サイロ（小）四〇t確保し、トウモロコシは新設の気密サイロ（大）一〇〇t、バンカーサイロ七〇t、計一七〇tを貯蔵しました。

次に乾草利用ですが、放牧専用草刈、埋草以外の余剰牧草を極力利用して約一六t（二・八九口梱包）確保しています。

今年は何年にもない異常気象で、全国的に暖かい冬となっていますが、ここ蒜山地方においても、正月以来殆んど雪のない日が続いており、比較的暖かいしのぎやすい冬を過ごしています。卒業生の皆さんも大いに活躍のこととお察しいたします。

さて、第一牧場の現況ですが、職員は、前年と同じく、常守、柴田、光畑の三名のほか教務課の津高、早瀬両先生の応援により、第十三期生の諸君と共に益々頑張っています。

ン種成牛三七頭（搾乳牛二八頭、乾乳牛五頭、未經産牛四頭）育成牛二〇頭（十二から十八ヶ月齢四頭、十九ヶ月齢未滿十六頭）それに肥育牛六頭の計六三頭を飼養しています。

昭和五四年二月一日現在の年齢別構成は、表一のように、後継牛の成育が良好であったのと老令牛の更新を進めたため、牛群全体の若返りが非常に目立っており、更に本年度は、後半になって雌子牛の生産が多かつたので、育成牛の比率が可成り高くなっています。経産牛の産次別構成は、表二のように、初産、二産のも

◎自給飼料の生産状況

本年度は雨量が比較的少なく、晴天の日が続き、秋も概ね温暖で秋作イタリアンライグラスの成長は非常に良好でした。しかし夏季は乾燥気味で、干害のおそれがみうけられたので、その防止対策として、放牧専用草地では、追肥及び掃除刈の時期

まず放牧利用については、草地八〇haに、四月二四日から十二月四日まで一五四日間、一日平均三八・九頭、約三・七時間放牧しました。一日一頭当りの採食利用量は三三・九kg位となっています。

青刈利用では、飼料畑七・四haを利用し、五月中旬から十二月中旬まで二二二日間に、二二三・五t青刈給与しました。本年は前にも話したように、青刈牧草の成育が極めて順調であったので、圃場内の牧草のみ

◎乳牛の状況

現在、第一牧場では、ホルスタイン

は、表二のように、初産、二産のも

用草地では、追肥及び掃除刈の時期

調であったので、圃場内の牧草のみ



第 1 牧 場

表 1. ホルスタイン種の年齢別構成

(54. 2. 1 現在)

出生年次	45	46	47	48	49	50	51	52	53	計
頭 数	2	2	4	6	6	9	7	6	15	57
比 率	3.5	3.5	7.1	10.5	10.5	15.8	12.3	10.5	26.3	100

表 2. ホルスタイン種の産次別構成

(54. 2. 1 現在)

産 次	1	2	3	4	5	6	計
頭 数	7	8	6	9	2	1	33
比 率	21.2	24.2	18.2	27.3	6.1	3.0	100

図 1. 月別 1 日 1 頭平均産乳量の推移

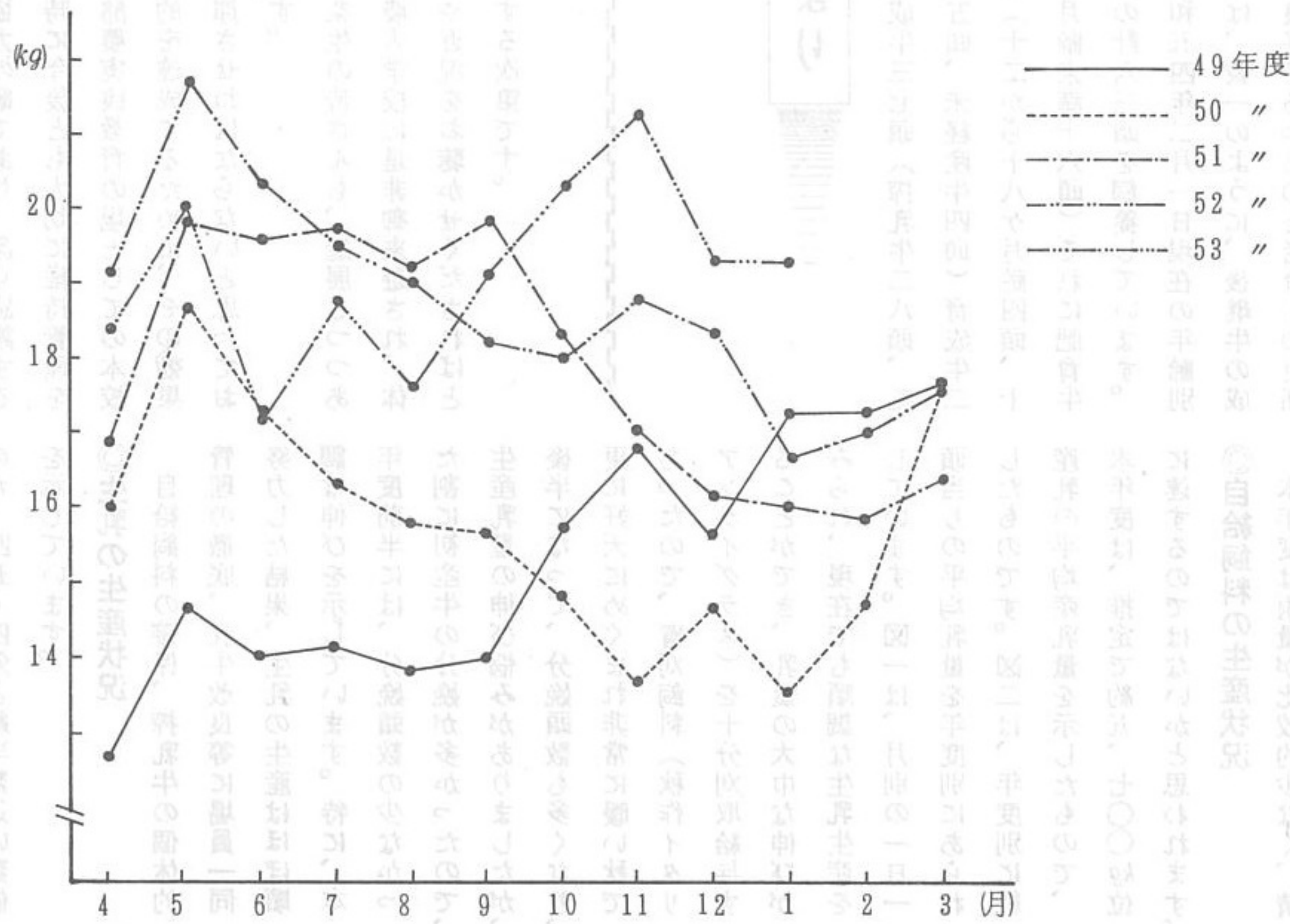
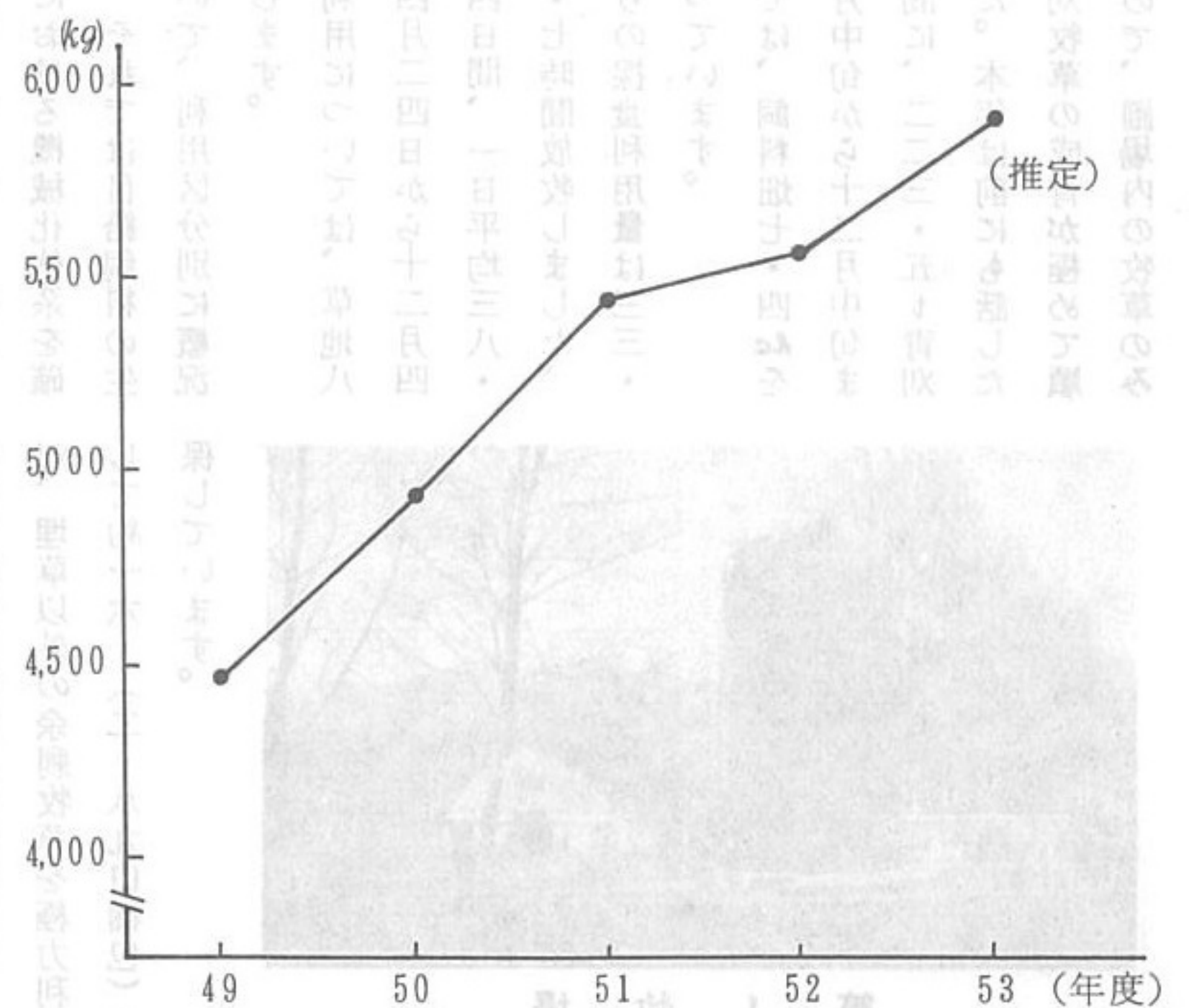


図 2. 年度別経産牛平均産乳量の推移



自給飼料の総生産量は飼料畑及び放牧利用分を加えて約九八八・七七、利用率七九・六%で、約七八七も程度となり、一〇a当りの生産量では約六、四〇〇kg、利用量は五、一〇

最後に卒業生の皆さんのご健康と

以上第一牧場の近況についてお知

益々のご活躍をお祈りいたします。

（第一牧場：光畑記）

第二牧場だより

本年は全国的な暖冬異変で、卒業の娘牛を残して十二月に廃用出荷した。生の皆様も暖かい冬の中で酪農経営

に励まれていることと思います。蒜山地方も雪積量は三〇〜四〇cmが三回あった程度で、根雪のない暖かい冬です。

皆様方の思い出多い第二牧場の近況をお知らせします。

本年度第二牧場で持筆されることは、第一に緊急粗飼料増産総合対策事業により気密サイロ二基と大型作業機を導入し、格納庫を建設したことです。これにより第二牧場は名実ともに近代化されました。第二に天候にめぐまれたためでもあります。八月の一日平均搾乳量が、ついに、一〇〇〇kgの大会に乗せることができました。

一、乳用牛飼養状況

表一に示すように現在のジャージー種牛の構成は、成牛一〇〇頭、育成牛五七頭、肥育牛五頭、計一六二頭です。肥育牛とは老廃または繁殖障害牛を肥育して出荷するもので、三カ月肥育して一頭約七万円の利益を加算することを予定しています。

また、胎内輸入されたスターダストセンチリアンスアストロ号は多数

放牧は四月二日から十一月十二日まで二〇六日間行うことができました。

採用利用の一番草は主としてサイレージに、二番草は主として乾草向に利用しました。気密サイロの完成が遅れたため、一番草は昨年同様に牛舎内をバンカーサイロとして利用して詰め込みました。詰込時天候にめぐまれ、新しい大型機械を使用し

たため調整作業が順調にはかどり、良質なグラスサイレージを作ることができました。

トウモロコシは放牧主体草地の中から五・七ha作付けしました。播種直後干ばつ気味で発芽障害があったこと、生育当初のタデ防除が不十分であったことなどにより、作柄は近年になく不作で深く反省しています。トウモロコシは気密サイロに詰め込み、二月十三日開封しました。

四、ロータリーパーラー

第二牧場では前号表紙の写真にありますように、五二年度、岡山県と地方競馬全国協会の特別な御配慮のもとに、全国で最も近代化の

衛生的な搾乳施設であるロータリーパーラーを建設し、昭和五十二年十二月五日から搾乳を開始しました。今回は、ロータリーパーラーの搾

乳行程や能率などについて説明いたしましょう。

なお、本年度も卒業生諸兄や酪農関係者あるいは消費者グループ等が多数見学に来て、優美な蒜山三座を望みながら、可愛いジャージー牛や、近代的で衛生的なしかもスピーディーなロータリーパーラーによる搾乳を感嘆の声を発しながら見ていました。皆様方も是非おいでください。

搾乳行程

牛はウォッシングストールに入るときは、後の扉の開閉により一頭づつ順序よく入り、その中でシャワーによる乳房洗浄を受けます。つぎに前の扉の開閉により右回転しているドーナツ型のターンテーブルに乗り、約8分で搾乳を終り休息室に帰りま

す。牛はターンテーブルに乗って、搾った生乳も自動的にバルククーラー間に自動的に給餌された濃厚飼料を食べながら搾乳されます。搾乳した乳はガラス製のレシーバーに溜まり、一頭ごとに搾乳量を読み取り記録していきます。ついで乳は受乳槽を経てバルククーラーに送られます。テートカップライナーは一頭の搾乳が終り次の牛に装着されるまでの間に洗浄と消毒をされます。また、搾乳後はテートカップライナーやレ

シーバージャーなどを、自動洗浄装置により水洗、洗剤洗浄、消毒することができ

ます。これらの行程は主制御盤および副制御盤により自動的に運転でき、場合により手動運転に切り替えることもできます。

搾乳能率など 一頭の搾乳は通常約8分で終了します。ターンテーブルは十二頭掛けなので約一〇分一回転します。従

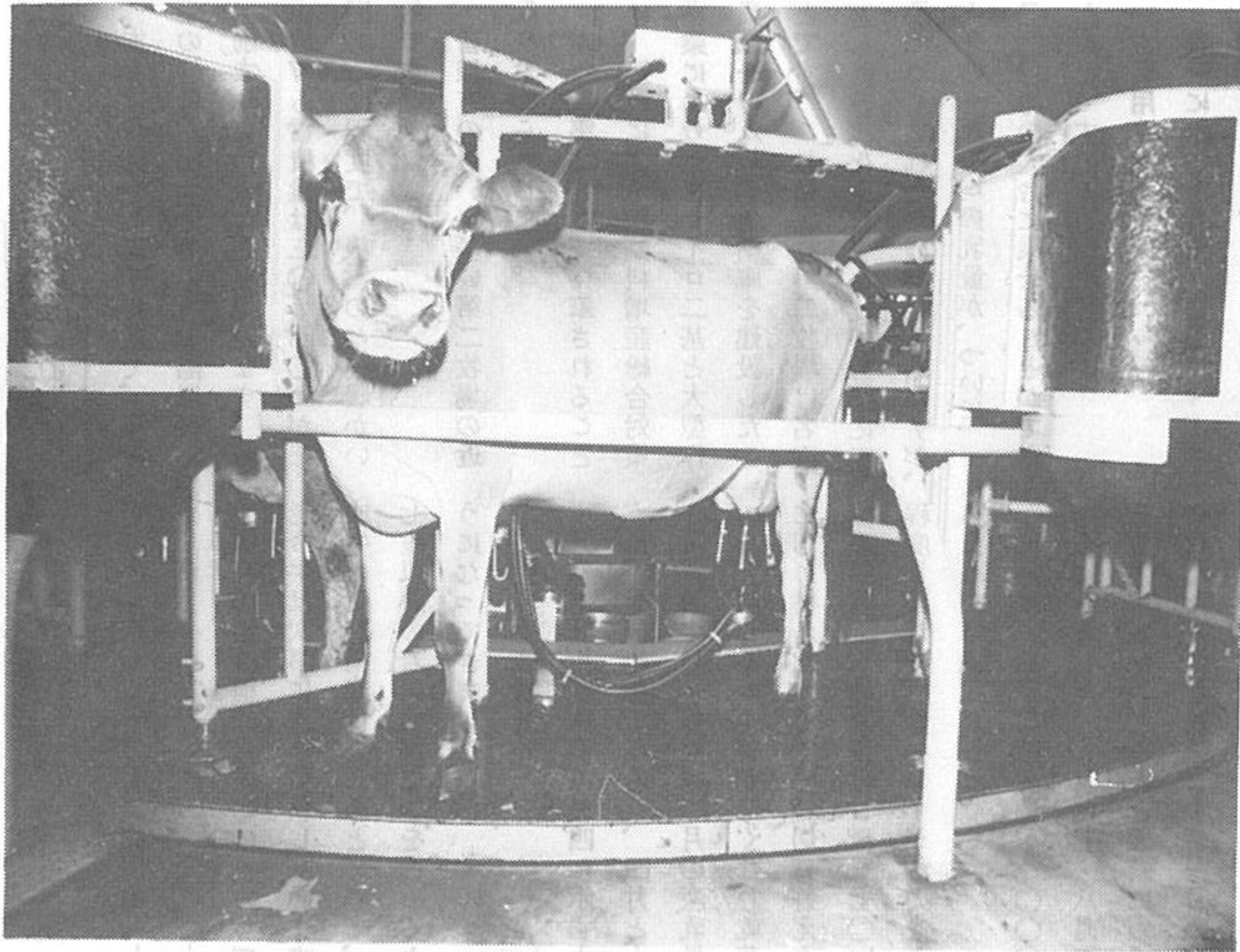
って五〇秒毎に一頭ターンテーブルに乗るので、八二頭の搾乳時間はロ

ス時間を含めて八〇分前後であり、非常にスピーディーな搾乳ができます。

テートカップの洗浄消毒は一頭の搾乳が終わるたびに自動的に行われ、搾った生乳も自動的にバルククーラーに送られるので非常に衛生的です。従って乳質もよく、細菌数は二〇〇万以下です。

ロータリーパーラー内での作業は、前拭き、前搾り、消毒をしてテートカップを装着する者と、マシンストリップングをしてテートカップを取りはずし、後拭き、計算記録を行う

二名が必要ですが、第二牧場では職員一名と学生三〜四名で搾乳しています。以上のようにロータリーパーラー



ロータリーパーラーでの搾乳

での搾乳は自動的にスピーディにし
 かも衛生的であり、また、立仕事で
 あるため作業が楽にできるので、学
 生諸君は楽しみながら搾乳技術を修得
 しています。

三、設備管理

表 1. ジャージー種牛の飼養状況

54. 2. 1 現在

区 分	成 牛			育 成 牛			肥 育 牛	計
	搾 乳 牛	乾 乳 牛	計	18カ月上 以	12~18 カ月令	12カ月令 未 満		
頭 数	85	15	100	20	12	25	57	162

表 2. ジャージー種牛の年令構成

54. 2. 1 現在

出 生 年 次	38 39	40 41	42 43	44 45	46	47	48	49	50	51	52	53	計
頭 数	2	2	7	8	10	12	17	14	17	18	30	25	162
比 率	1.2	1.2	4.3	4.9	6.2	7.4	10.5	8.6	10.5	11.1	18.5	15.4	100.0

表 3. ジャージー種牛の産歴構成 (経産牛のみ)

54. 2. 1 現在

産 次 数	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計
頭 数	1	2	1	5	1	5	9	13	14	20	14	18	103
比 率	1.0	1.9	1.0	4.9	1.0	4.9	8.7	12.6	13.6	19.4	13.6	17.5	100.0

表 4. 月別生乳生産状況

54. 2. 1 現在

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
		総 乳 量	52年度	21,945	27,242	27,993	29,684	26,819	24,371	23,886	26,545	21,786	21,894	17,456
	53年度	20,322	28,491	28,861	29,821	31,455	28,210	25,353	23,460	22,636	25,442			
1日平均	52年度	713.5	878.3	933.1	957.5	865.1	812.4	770.5	884.0	702.8	706.3	623.4	656.7	793.5
搾 乳 量	53年度	677.4	919.1	962.0	962.0	1,014.7	940.4	817.9	782.0	730.2	820.7			
对前年比		92.6	104.6	103.1	100.5	117.3	115.8	106.1	88.4	103.9	116.2			

卒業生からの便り

我家の酪農経営の経過

第四期卒業生 住田 益三

(島根県大田市川合町)

我家の酪農は昭和三十一年に、父が千葉県から一頭の初妊牛を導入したことに始まり、私は六才の時でした。それ以来、およそ一年一頭づつ増やし、私が高校に行く頃には十頭くらい飼養するようになっていました。

その頃、父や母が、相協力し合って牛の世話をするのを見ながら、父は私に何も言わなかったのですが、高校二年の頃には、自分ながらに牛飼いの道に入る事を、たいした不安も抵抗もなく自覚していました。高校を卒業すると酪大に入学し、在学中には、七ヶ月間、高知県において、山地放牧酪農の先駆者である岡崎正英さんの牧場で実習しました。そして四五年の春、人工授精師とトラクターの免許も得て、卒業と同時に、父が経営していた酪農と稲作の専業経営の中に就農しました。当時成牛が十頭、育成が五頭位であり、翌四六年、二二頭入り牛舎を建てまし

大田市酪農組合管内でも毎年酪農に見切をつける組合員が、二ヶ代となるなどまさに揺れ動く農業情勢の中で、ついに我家においても酪農は父母がやれる程度に止めておいて、勤めに出た方が良いのではないかと、いう状態になっておりました。それでも勤め人になることだけは止めて、アルバイト的な日雇として私は出るようになり、毎日しっかりとせず、酪農家の人に出会ったら影に入りたような思いをしながら、弁当を持って通うこと、年に二〇〇日位を六年間続けました。しかし、その間も毎日朝牛舎へ行き、牛の糞をトラクターに積んで出しておくことや、種付等は欠かしませんでした。夕方搾乳は仕事の帰りが六時を過ぎるためできませんでした。仕事に出ていても自分の頭の中はいつも乳牛のことばかりで、他の人が皆仕事に身を投入してやっているのを見ると、事業主さんにもすまなく思い、肩身の狭い思いの連続でした。その間四九年に結婚し、これを機になんとか夫婦二人に見合うだけの収入を上げる酪農を築こうと思ったのですが、妻の保母の資格に甘んじ、これ又保育園に勤めるようになりました。こんな事を続けているうちに、父も母も

年を重ねるばかりだし、自分もいつまでも若さがあるという訳ではないので、なんとかしなければ、との思いが年毎に高まり、五二年二月に静岡県の富士開拓で酪農をしておられる中島富治さんの牧場へ一人で作業着を持って視察に行き、ここで伺った話が、我家の経営転換のきっかけとなり、五二年には前年対比三万キロ、五三年には三万六千キロと比較的順調に伸び始め、五三年の所得も四九〇万円余と、五、六年前あるいは五二年の二四〇万円と比較して大幅に伸び始めました。幸い五三年は、乳価高の飼料安にも支えられましたものの、経営改善による影響が大であることは、まちがいないようです。私は五二年の六月で日雇いの労働を止め、妻も五三年六月に保育園を退職し、今は収入の百パーセントが農業からとなり、再び專業化ということになりました。子供も二人出生した今、あの時経営転換して一応の軌道に乗せておいたことが良かったとしみじみ思います。

今後の目標について

私の追い続けるものは、今の飼養形態での酪農ではなくて、土地基盤を求め、自給飼料の増産を図り、ともすると牛に使われているのでは、



卒業後の歩み

第五期卒業生 小 松 正 幸

(高知県香美郡野市町)

昭和四六年三月残雪残る蒜山の母校を、大いなる酪農への夢と希望を胸に秘めて巣立って、はや七年の歳月が過ぎてしまいました。この間数多くの出来事に出会って現在に至っております。

昭和四六年三月残雪残る蒜山の母校を、大いなる酪農への夢と希望を胸に秘めて巣立って、はや七年の歳月が過ぎてしまいました。この間数多くの出来事に出会って現在に至っております。

それでは、卒業後の自分の歩んできた経過を少し取りまとめてみます。昭和四六年三月帰高時の我家の経営内容は、成牛十二頭育成牛五頭の計十七頭、その他稲作早掘芋を栽培していました。

以上のように四項目を今後の目標にする事にしました。これらの事について順次経過をまとめて見ました。一、まず増頭については一氣に多頭化するのではなく、二回に分けて行なう様にしました。昭和四六年十頭分牛舎を増築し乳牛四頭を導入しました。昭和五〇年八頭分牛舎を増築しました。二回の増築と旧牛舎合せて三〇頭牛舎となりました。昭和五一年育成十頭収容牛舎を新築しました。

いよいよ自営して今後経営を行なっていく上で、色々な事を考慮して自分なりに向こう十年間位の目標を立てる事に致しました。その為にはまず現在の多角的経営内容の合理化、つまり酪農経営一本にする事です。

増頭、増築については以上の様に多頭化を図ってまいりました。導入牛以外はすべて自家育成で毎年五頭程度です。

(酪農経営の内容)
一、乳牛頭数成牛三〇頭育成牛十頭計四〇頭程度
二、あくまでも自給飼料型酪農にしたい。
三、経営の最重点項目として乳牛群の改良を取り上げ体型、能力の斉

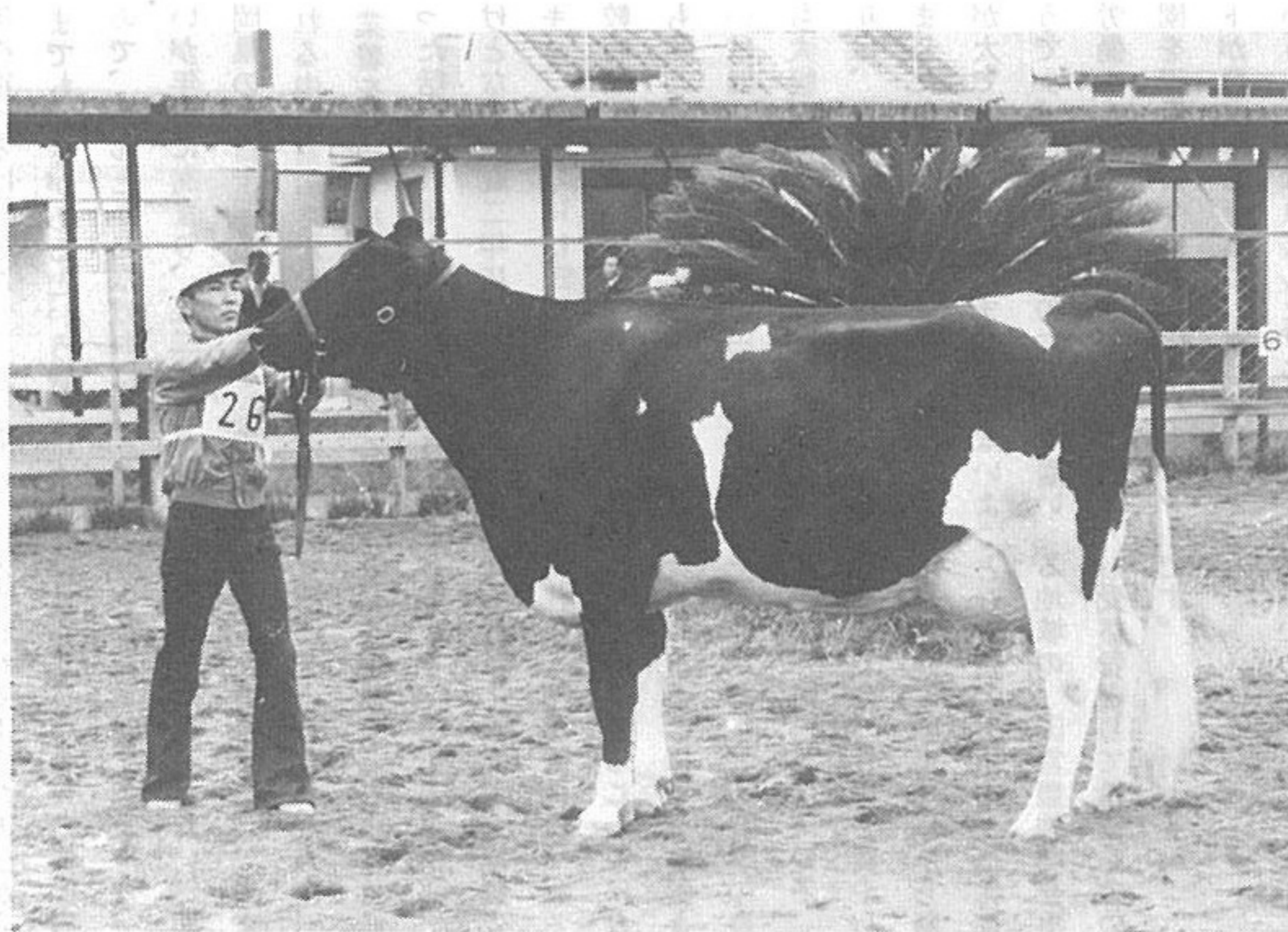
自己所有地一・五haと借地を増頭に從って増やし、両方合わせ四haとしました。なお借地は、稲転による休耕田と裏作です。四haから収穫される牧草はイタリアンは主として青刈り四〇%残りは乾草としました。夏の牧草は、青刈りとサイレージ処理します。

三、(乳牛群改良部門)
○全国優良種牛の広域利用による凍結精液利用。優良基礎牛の導入、昭和五〇年北海道から十二ヶ月令牛導入(ラッス・エンパイ・クリスタン)。昭和五一年淡路から経産牛導入(エア・マークイス・フオーブス)。以上に合わせ従来飼っていた中から選択。改良同志会への参加により各種研修会、講話会などで改良知識、技術の向上を図る。改良のパロメーターとして、春秋年二回の高等受検、各種共進会への参加等。

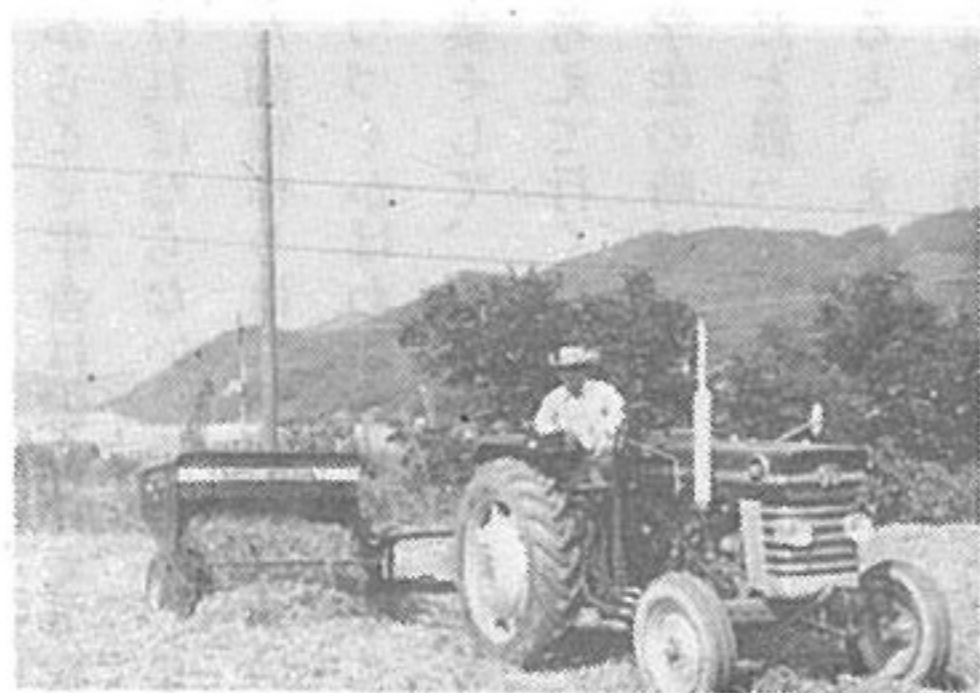
(改良部門の成果)
○昭和五一年自家生産牛による八〇点、八〇・五点獲得。昭和五二年マーカーキス号八三・五点、クリスタン八二・〇点獲得。昭和五二年第六回高知県B&Wショー経産牛乳器の部門でグランドチャンピオン。昭和五三年第七回高知県B&Wショー未經産牛、経産牛両部門グランドチャンピオン。秋に開催された県共進会において、農林大臣賞を獲得する事が出来ました。○能力面においても昭和五三年末で、搾乳牛平均六、〇〇〇kg強と当面の目標には少し足りませんが、おおむね達成。



牛 舎



我家の代表牛 ラッス・エンパイア・クリスタン号 3才82点
昭和53年 第7回高知県B&Wショー グランドチャンピオン
高知県共進会 農林大臣賞



四、(機械化による作業の省力化)

○飼料生産、収穫関係、昭和四六年、四七年稲作転換事業利用による、大型トラクター(ファアガソン一六五)と一連のアタッチメント(モアー・ハーベスタ。テッター。ワゴン。バキューム)等導入

○牛舎関係昭和五〇年バーンクリナー設置、昭和五一年バルククーラー、昭和五二年パイプラインミルカー。

以上述べました様な経過をたどって現在に至っています。それでは、未熟な自分自身の体験の中から感じた事、又今後の希望等を少し述べて見ます。私達が行なっている集約的な酪農(内地型)経営では、出来るだけ高能力の乳牛を飼養することが必要であり、これらの能力の高い牛を事故なく飼養し、能

卒業後一年、私の思うこと

第十二期卒業生 広田晴彦
(岡山県苫田郡鏡野町)

力を十分發揮させる事が経営安定へつながる道であり、そうする為には良質な粗飼料を年間平衡して給与する事が大切であると感じております。又、乳牛頭数に合った圃場面積の確保、良質牧草が収穫出来る土づくり

が必要であると思います。どこかの偉い先生が酪農の基本は、土づくり、草作り、牛作りと言った言葉を今さらながら実感として感じました。

今後の自分の目標と致しましては頭数は、現在の四〇頭で十分であるので、より一層内容の濃い経営の確立、言いかえるとすべての面でパランスのとれた経営内容にしたいと考

えます。それに出来れば、搾乳プラステッド販売の道を開く事を、今後の一つの課題にしていく事を計画しています。

当初に立てた目標も一応達成に近づきつつある昨今でございますが、今後酪農をとりまく諸情勢の変化に対応できる様、さらに研究努力して

乾 草 調 整

頑張るつもりでございます。又、自分達が卒業後も、郷土から、後輩達が明日の酪農を目ざし、酪大へ入学し、現在何人かの者が自営している事は、本当に心強く思うし、又同じ道を志す者同志が、酪大卒業を誇りと思っ

て頑張ろうではありませんか。昭和五三年三月に卒業して約一年が過ぎようとしています。現在、私の家では、父母と共に水稲と酪農の複合経営を行なっています。内容は、水稲一ha、搾乳牛一六頭、乾乳初妊牛五頭、育成牛八頭で経営しています。私が住んでいるあたりは、鏡野町でも水田地帯のため、畑はなく、水田転換畑と、裏小作でしか粗飼料生産はできず、労働的には、時期が重なりかなり苦しい時もあります。飼料作物は、イタリアン三ha、デントコーン〇・三ha、ソルゴー〇・二ha、シコクビエ〇・二ha、でデントコーンとソルゴーは全部、イタリアンは半分程度サイレージにし、通年サイレージの給与方式を行なっています。のこりのイタリアンとシコクビエは乾草と青刈で与えます。サイロは昭和五〇年度緊急粗飼料増産総合対策事業で入れた五六m²一基と二m²×二m²×五m²のブロックサイロ四基を二回転させています。

一年間わが家の経営を反省し、そしてよその家の経営を見たり聞いた

な生活で、よそを飛びまわって見たり聞いたりした成果を十分出して、安くて機能性のよい働きやすい牛舎をと考えています。牛舎は金をもうけてはくれないけれど、金をもうけるには、労働生産性の上がる牛舎でなければなりません。牛舎を建てることで、もう一つ考えたのは、今までの頭数規模で父二人で行なっているのだから、私が入って現在は三人、将来結婚したら四人がくらしに行くことのできる規模、くらしで行けると言っても、サラリーマン家庭よりは上のくらしができればと思っています。そのあたりから現在の所三〇頭搾乳、将来結婚したら四〇頭ぐらい搾乳牛を置いてもいいと考えています。それから、これだけ乳がだぶつき

でしたらどうなるかと言うことを、最近思うようになって来ました。まず乳があまるのだから乳価はせったい上がらない。それに外国から入ってくる穀物が入ってこなくなったらという二点を考えたら、労働生産性の向上と飼料作物作りを考える必要があると思います。乳価が上がらなくても一母の乳を安く搾ればいいのだから、飼料の自給率を高め、そして働き良い牛舎にすればいいのです。



だからこそ牛舎はよく考えて設計しなければならぬと思っています。また飼料作りは、稲転事業がいつまでつづくかはわからないけど、稲転事業そして、水田裏作の利用をもっと考えて行く必要があると思います。学生の際は、酪農ってみやすいものだと思っていたけど実際にやってみると、まわりは壁ばかりで、なかなか自由にはならないものだと、この頃になって思うようになりました。

大学校あれこれ

- 四月五日、第十四期生三九名が酪農に胸をふくらませ多数の来賓の方から祝福を受け入学した。
- 五月三〇日、地方競馬全国協会から山本理事視察来校された。
- 六月二二日、校内バレーボール大会を開催し、第十四期生三チーム、研修生（第十三期生）チーム、職員チームで対戦し、研修生チームが優勝した。
- 七月十二日と十三日、恒例の乳牛動態調査を開始したが、二〇時頃から雷雨が激しくなりやむなく中断し、翌朝九時から再会し十四日午前で無事に終了することができた。



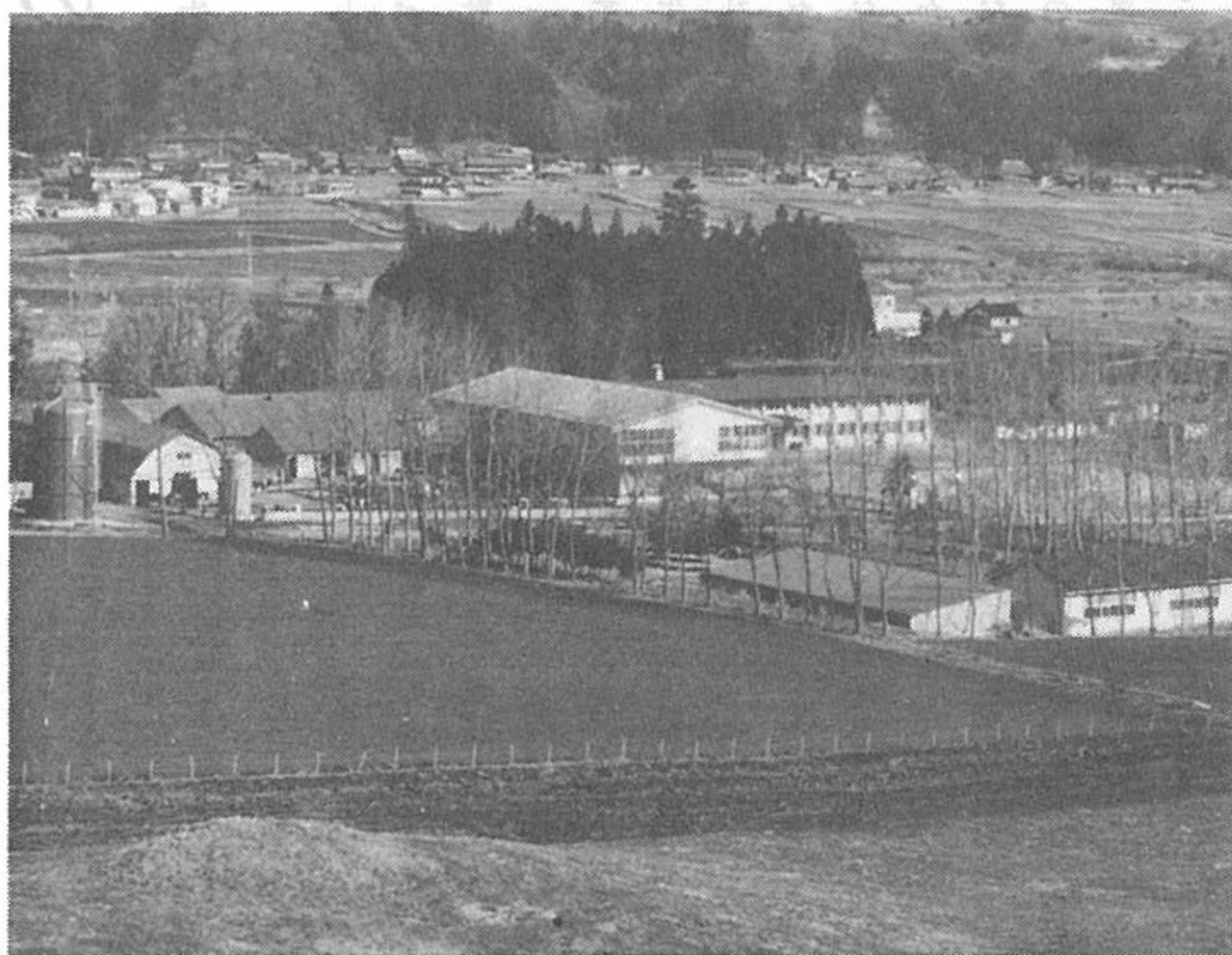
校内バレーボール大会



校内ソフトボール大会

- 八月七日、学校としては初めての行事として、同じ農業の後継者として修業している岡山県立農業大学校の学生と、二日間に渡り交流会を行った。農大生二〇名参加。
- 一〇月三日、第十三期生が校外研修を終えて全員元気に帰校し後期就学について。
- 一〇月四日、第十三期生の校外研修についての成果を発表し検討しあった。
- 一〇月十九日二〇日の両日、農耕用大型トラクター、およびけん引運転免許試験を蒜山高校のグラウンドで受け学生は全員合格した。

- 蒜山地区体育協会主催の秋季バレーボール・リーグ戦大会に、我々も参加し、柴田先生の「オレについて来い」のリードで、職員、学生の混合酪大チームで対戦、夜々の試合に善して、昨年は三位入賞であったが、今年は準優勝の栄に輝いた。
- 一月二三日から二月二日まで、家畜人工受精講習会が開催され、二七名が受講、二月六日七日の両日修業試験が実施された。
- 二月八日、五年度の推せん入学試験を実施したが、多数の応募があった。
- 三月二十八日、第十三期生がいろいろの内容を残し、また思いを持って入学以来一人の落後者もなく、二七名元気に学舎を巣立って行く。



学 校 の 全 景

お知らせ

○ 第九期生の平石美和子嬢は、倉吉市大江で酪農を経営されている磯上輝行氏と四月十六日、結ばれ新生活のスタートをした。お二方のご多幸を祈ります。

○ 家畜改良事業団の岡山種雄牛センターに勤めている第六期生の細川辰也君は三月三十一日に、また、坂手光夫君は、四月三日にそれぞれの華燭の典を挙げられました。ご二人の新生活の門出を祝します。

○ 第四期生の若林和幸君と、秀村治美嬢は一〇月に相結ばれ、第二の人生に二人力を合せて出発されました。ご多幸と今後の発展を期待します。

○ 第一〇期生の渡辺敬一君は十二月六日に、赤木義美君は十二月十二日に、それぞれ良き伴侶と新生活に入られました。お二方のご多幸とご発展をお祈りします。

○ 第六期生の同窓会が、十二月十六日津山市の「佐良苑」で催され各地から十七名が参集し、各々の近状や、これからの計画、また昔を懐しみ語り明かされた。なお、当時の先生からは、森大二先生（

元第一牧場長）、日笠重雄先生（元衛生課長）のご兩名と、酪大からは、竹内副校長が出席しました。

人の動き

六期生の参集者は、同期の故杉村茂君の墓に参り霊に花をささげてもうの再会を誓って開散された。

○ 第七期生の美甘泰治君と同期の泉川三津代嬢は、二月七日相結ばれて新生活のスタートをされました。二人の結婚式は五三年一〇月の予定であったが、美甘君が不慮の事故により入院治療生活が長びき、このほど全快され挙式の運びとなった次第です。幾久しくご多幸を祈ります。

○ 第四期生の倉橋啓介君（京都府天田郡夜久野町大油一三三）は、人生の良き伴侶が決り五四年五月に挙式の予定とのことです。

岡山県岡山地方振興局長 尾敏彦
岡山県農林部畜産課 百野 勇
岡山県真庭家畜保健衛生所次長 日笠重雄
岡山県岡山地方振興局長 信江 茂
岡山県岡山地方振興局長 永井 仁

現職員名簿
(昭和五十四年四月一日現在)
校長 花房清人
副校長 竹内秀雄
副校長 木本肇
主任 柴田光政
主任 野島真純
部長 野島真純
部長 柴田光政
主事 堀義和

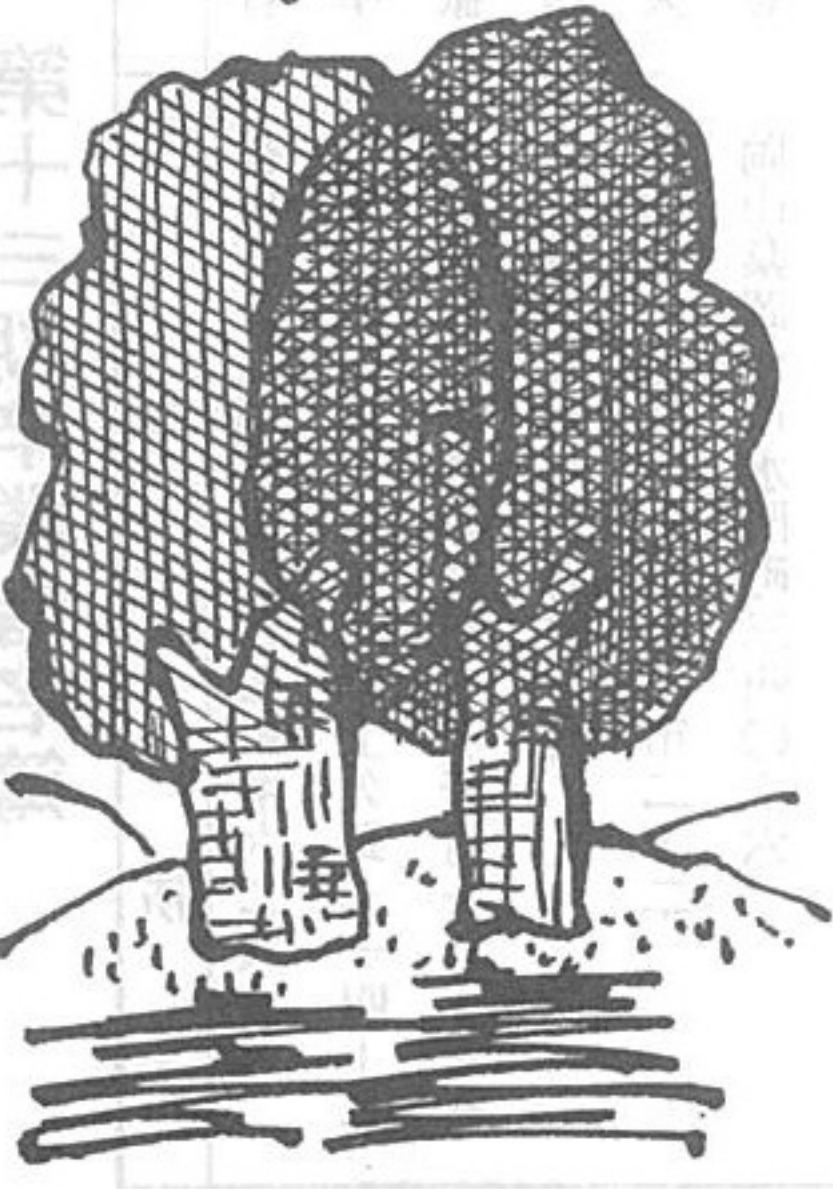
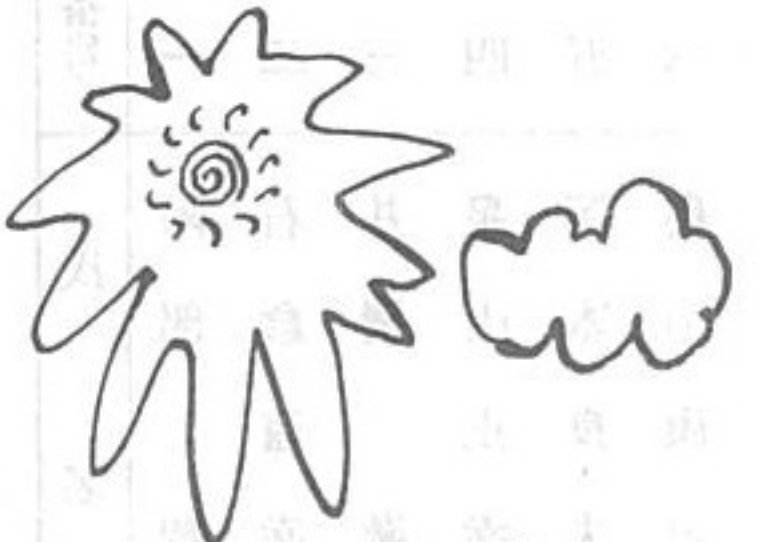
編集後記

津田清子 池田富幸 戸田道子 神田智恵子 植木富士男 光畑 稔 柴田 範彦 常守 実 森次興士 有富敬典 大内紀章 三牧孝徳 高橋俊彦 磯田 博

不況による牛乳消費の伸び率低下、濃厚飼料原料生産の大幅な国外依存の内外からの農産物輸入拡大圧力の高まり、畜産公害、畜産物支持価格に関する農林水産省の意向等、多くの問題に直面し、より一層の経営努力の必要を余儀なくされている今日、卒業生の皆さん、元気で日夜酪農業務に精励されていることと思っております。

学園便りの発行につきまして、今回は、学校の近況、牧場の現況及び学校の一年間の主な行事を中心にお知らせしました。

今後、学園と卒業生の皆さんとの連携を深めるため、皆さんのお便り、ご寄稿を期待します。



第十四期生各載

昭和五十四年

第十三期生